



UMEX 夢っくす ニュース

かわらばん

巻き寿司パーティー

高橋 和子

私の記憶が正しければ2019年3月17日に巻き寿司パーティーを最後に行ってから3年間、飲食を伴う大きなイベントを自粛して来ましたが、漸く再開できるようになりました。

例年どおり管理栄養士の千喜良たまき先生に講師をお願いし、基本から正しく丁寧に巻き寿司を教えて頂きました。流石に基本がしっかりしていると、初めて挑戦した学生もきっちりと作ることができます。伝統の巻き寿司と裏巻きと言われるカリフォルニアロールの2種類の巻き寿司を楽しんでもらえました。モンゴルでは同じような巻き寿司があるようで、とても手慣れた感じてした。

それぞれの国でこのような寿司をお店で頼むと一本千円くらいするそうで、それぞれ2本を持ち帰ることができて皆さん満足そうでした。寿司の具材はほうれん草、卵焼き、カニカマ、きゅうり、椎茸、デンプ、大人気のシーチキンマヨネーズ、そして魚沼独特の胡桃の甘露煮等など。巻き寿司用の海苔を探すのは大変かもしれませんが、ぜひ母国に戻ってもまた作って頂きたい日本料理の一つです。

コロナ感染症が落ち着いて来ていて、少しずつ活動もし易くなって来ると思いますので、これからもイベントへのご参加をお願い致します。

(3月11日【土】スナックラウンジにて)



Let's Enjoy the Beauty of White World through IUJ Ski Day



毎年恒例のスキーデー。今年は、オファーもなくどうしたものかと思いつつ、Gretchenさんにメールしたら”Just Go”。高橋会長も出られるとのこと。天気も良かったので、”なんちゃってスキー指導員”としては行かない理由を見失ってしまった。

現場に着くと、初心者たちが待ち受けていて、もうスキーを履いているではないか。では”Ladies and Gentleman”と言おうとしたら、生徒は女性ばかりだ。(笑) 遠回りが一番の近道”(イチロー)とばかりに一旦スキーを脱がせて持ち運び方、着脱方法を教えるところから始める。スキーは安全に楽しく滑ることが第一であり、英会話学習同様、習いながら慣れることだ。慣れるだけでは上達しないが、リフトを使い距離を滑って慣れることも大切だ。その前に緩やかな斜面で基本を習得し、リフトへ導くタイミングの見極めが大切になる。2時間あれば、マンツーマンなら3回はリフトに連れて行くこともあるが、グルーブレッスンでは、1回が関の山。だからこそ、多くの指導員が必要なのだ。

さて、今回は一人だけ、1時間くらいのグルーブレッスンでリフトに連れて行けたので、その後、ストックでバランスを補助しながらマンツーマンで一緒に2本滑ることができた。その彼女曰く、”I am falling in love with skiing for the first time.” インドネシアの学生はレンタルではなく先輩が購入したスキーを代々使っていると聞いた。見渡す限りの白銀の世界で颯爽と風を切って突っ走ることこそスキーの醍醐味だ。一人でも多くの学生さんにスキーの楽しさを伝えて南魚沼市を好きになって欲しいと思いつながら参加している。

今井 雄一 (2月18日【土】八海山麓スキー場にて)





日本文化体験会

1月28日(土)に茶道と書道の日本文化体験会が行われました。書道に参加して下さる方はいらっしゃるかな?と心配でしたが、たくさんの方が体験して下さい嬉しく思いました。初めての筆、墨。それなのに皆さんがとても上手で驚きました。画数の多い字が人気な事も発見でした。

消しゴム落款を作り、押すと素晴らしい芸術作品。大きく書いた書はダイナミックで力強い作品に。小さく細い書は墨の黒、紙の白、印泥の赤が美しい作品に。

私は久しぶりにウキウキしました。次があるかは分かりませんが、翌日 A~Z 消しゴム落款を作りました。(丸山 恵子)

雪ちらつく1月28日(土)に国際大学のスナックラウンジで日本文化体験会を行いました。

長引くコロナ禍でなかなか学生さんとイベントが開催できない中、ようやくコロナ感染も落ち着きを見せ始め、高橋会長主導により会員の皆さんご協力のもと感染予防を徹底し、こうしてイベントを開催することができ感謝しています。学生さんもコロナ禍の最中に入学生され、日本文化になかなか触れる機会がない中、今回は「書道」と「茶道」を体験して頂きました。

私自身、茶道を28年間しているのですが、初めてインターナショナルな場で茶道のお点前を披露させて頂くことができ、大変光栄に思っています。学生さんもおそらく書道や茶道を体験したかと思うのですが、とても興味深く熱心にそして楽しそうに体験されていた姿がとても嬉しく思います。書道では、会員の丸山恵子さん指導のもと、皆さんとても上手に筆を執り書を楽しんでいました。茶道でもお点前やお道具・お抹茶などを通じ詫びさびの雰囲気をも少し味わって頂いたのかと感じています。日本文化には「道」と名のつくものが多くあります。古き良き伝統を五感・身体で体験して頂き、母国に帰った時に日本で体験した様々な経験が貴重なものとなる信じ、今後も夢々とする活動を続けて行きたいと思っております。(角屋 志津子)



久しぶりのたこ焼きパーティー

小島 由美



雪景色で輝く年の暮れこと。シリアのアイシャさんを囲んで、12月20日(火)に夢々すサロンでたこ焼きパーティーをしました。高橋さんが準備をしてくださり、武宮さんと私が参加しました。

アイシャさんはたこ焼きが初めてで、材料や作り方に興味津々でした。特に、焼き方のユニークさを楽しんでいました。手先が器用でとても綺麗に作れるので、たくさんお任せしました。またありがたいことに、白雪のようなシリアのチーズケーキを作ってきてくれました。ほんのり甘く、柔らかくて美味しかったです。

途中から、サロン前を通りがかった学生さんも招き入れました。全員が初めての体験で、雪玉を作る



子どものように、たこ焼きを丸くするのに夢中でした。味の良さにも感激して、たこ焼き器の値段を知りたがり、その安さに驚く一方で、たこの高価さには、信じられない!といった様子でした。たこはモーリタニア産やモロッコ産が多い、という話をしたら、アフリカの学生が「知らなかった!ビジネスチャンスですね!」と言っていました。こんな会話をしながら、コロナ禍前の交流を懐かしく思い出しました。

大満足の笑顔で食べ終わって、マスクをつけてから、さらに話が弾み、久しぶりのたこ焼きパーティーは大成功でした。そして最近では、コロナウィルスの流行が落ち着きを見せてきたので、夢々すとしての大きなイベントも再開できました。雪どけを待たずに春を先取りしたような、温かく明るい気持ちになりました。

クリスマスリース作り

篠田 幸枝

クリスマスリースを作る会をやろうと思ったのは、我が家に保管されている大量の松ぼっくりが発端でした。元々はフラワーアレンジメントに使うつもりで、友人と一緒に山から拾ってきた物でしたが、夢中になりすぎたようで、使いきれないくらいの量になってしまいました。パンデミック以降、夢々くすの活動もすっかり下火になって寂しい思いをしていましたが、昨年になって、社会的にも規制が緩和されてきた風潮を受けて、大学での活動も許されてきたそうで、リースを作る会を開催しても良いですよと快諾していただいたことから、三年ぶりにクリスマスイベントを開催することができました。

今回のリース作りでは家にある材料で、材料費をかけず、誰でも簡単に可愛いリースが作れることをテーマとしていました。使用した材料は、紙、ワイヤー、キッチンペーパー、塗装した松ぼっくり、そして、家庭内に保管されがちなラッピング用のリボン、毛糸です。事前に会員の皆様からご協力頂き、材



料は殆ど集めることができました。中には珍しいアフリカからきた布もありました。クリスマスイベント開催の前に有志の会員の皆様と一緒に松ぼっくりを塗装する作業やリースの土台を作る作業、当日に参加された学生さんへプレゼントするためのお菓子を袋詰めする作業をしました。久しぶりのイベント準備はワクワクしました。とはいえ、コロナ禍の中の開催ということで、当日は作業スペースを分散して作ることで人の密集を避け、食べ物は用意せず、水分補給のためのお茶コーナーのみを作ることにしました。

学生さんは試験が近かったこともあってか、期待していたほど人数は集まりませんでした。けれど、学生さんの家族、特に子供たちはたくさん集まってくれました。毛糸をぐるぐるとリースの土台に巻き付けていく作業に子供たちは苦戦して、時にはお母さんが手伝っていましたが、アレンジになると子供ならではの大胆な発想で、色とりどりのリースがあっという間に出来上がりました。リースの表と裏、両方に松ぼっくりをつけてみたり、アフリカの布をリボンにしてみたり、シンプルな材料でもカラフルなリース達を作ることができました。

もうひとつ作りたいという声もあって、みなさんが楽しんでくれたようでホッとしています。また、この会が終わったあとも家で作ってみようと思っていただけたら嬉しいです。今回、協力していただいた会員の皆様、大変ありがとうございました。無事にイベントを終了することができて良かったです。次回も楽しいクラフトのイベントを考えたいと思いますので宜しくお願いします。

(12月10日【土】スナックラウンジにて)

たこ焼きパーティー

関矢 秋子

昨年の秋、私は縁あって中南米エルサルバドルの学生、Anaさんと知り合いました。彼女は明るくて美人さんです。

これまでのコロナ禍では学生さんとの交流も思う様に出来ない3年間でしたが、今年になりようやく我が家でAnaさん、高橋さん他の少人数でのたこ焼きパーティーをする事ができました。Anaさんは前々から初のたこ焼きを楽しみにしていたようでしたが実は私も焼くのは初めて。そんな訳で勝手が分からない私は当日高橋さんに器具から材料まで頼ることになりました。始めは形も思う様には作れませんでした。Anaさんは直ぐに上手に串を使って焼き、美味しいと食べてくれました。お好み焼きのソースも気に入ったようでした。

その日、Anaさんはお国のピンクの甘い飲み物でほのかにスパイスの香が清々しい「Cebaba」を持参して飲ませてくれました。後日



聞いたところではそれは牛乳、砂糖、小麦粉、シナモン、グローブが入っていたとのことで暑い国ではそれを皆がたくさん飲んでいるだろうと想像できました。エルサルバドルは遥かに遠く私には馴染みのない国でした。しかし、Anaさんとの交流で知ることも多く、身近に感じるようになりました。大のコーヒー好きでラテン音楽も好きな私はAnaさんと会う前からタコ糸(笑笑)で結ばれていたのかも？卒業までの短い間、なるべく会って楽しい時間を過ごしたいものです。

(1月15日【日】関矢さん宅にて)

I love KIMONO

The Kimono, one of the traditional symbols in Japan is a heartfelt closer came to Sri Lankans with the "OSHIN" teledrama written by Sugako Hashida which is still famous among Sri Lankans and was broadcasted in the 1990s in Sri Lanka. I too dreamt since my childhood to wear a Kimono as "OSHIN" was a very impressive and hard-working girl when she was in her childhood. In early last November, Mrs. Kazuko Takahashi, a good friend of mine shared her past memories of former IUJ students who were wearing Kimonos on her Facebook wall. So, I closed my eyes for a moment and recalled my memories of watching "OSHIN" with my family. Mrs. Kazuko's memories made me awake to come true to my dream. At that time my mother has also come to Japan from Sri Lanka to visit and experience Japan. So, I decided this is the best time to experience kimonos.

As an IUJ students, we are lucky to have UMEX. Members of UMEX are providing an opportunity for IUJ students and their families to experience Kimonos. Luckily, Mrs. Kazuko is a member of UMEX and I



学生のエランギさん（スリランカ出身）から着物の感想を寄せて頂きました。

contacted her to have a memorable chance of wearing kimonos with my Family. So, a day that was close to winter, November 20th, was one of the most memorable and joyful days in my life. Kimonos, Japan, Snow, and cherry blossoms were close to Sri Lankans through "OSHIN". We, as Sri Lankans joyfully experienced Kimonos in Japan on that day. Japanese people have used "Kimonos" as both casual wear and formal wear from ancient times. By now, the kimono, which was originally worn on a daily basis, is mostly worn for ceremonial events. When we finished wearing the kimonos, we were speechless for a moment. I wanted to understand that this was true. I was attracted to my appearance. I felt happy as the day I was a bride. How my husband and my son were more handsome in Samurai kimonos than in western suits! How beautiful my mother is in a kimono!

My friend, Thet Hnin San captured beautiful photos and videos of our kimono wearing. When I posted them on my Face Book, lots of my friends reacted and commented on them with surprise since many Sri Lankans used to love Kimonos through "OSHIN". I believe in angels! I never thought that I could be able one day to wear a kimono in the country of kimonos originated. Thanks to the UMEX I was enough lucky to make my dream come true.

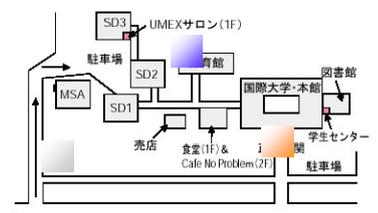
Erangi Fernando (Sri Lanka)

うおぬま国際交流協会
UMEX UONUMA Association for Multicultural EXchange



〒949-6609
新潟県南魚沼市八幡35-7
うおぬま国際交流協会（夢っくす）事務局

夢っくすサロン（国際大学第3学生寮1階）
TEL/FAX: 025-779-1520
E-Mail: office@umex.ne.jp
URL: https://www.umex.ne.jp/



入会方法

入会の申込書は夢っくすのホームページから入手してください。現在、申込書はFAXでの受け取りはできませんので、かわらばんに記載されてある住所宛に郵送をお願いします。会費と振り込み先は以下となっておりますが、入金の際には振り込んでよいか事前にお問い合わせください。

年会費
個人会員：3,000円
家族会員：1,500円
団体会員：1口 10,000円から任意の口数

郵便口座
口座番号：00550-7-74672
口座名称：うおぬま国際交流協会

担当者連絡先

高橋（会長、担当：サロン、多言語など）：070-5083-3123
櫻井（副会長、担当：イベントなど）：080-6608-4830
森山（担当：広報）：090-6945-9402
角屋（担当：キッズ）：090-8773-0329

【編集後記】

漸くコロナ禍が終わる気配が出て来たので、夢っくすでは今年に入って幾つかのイベントを開くことができました。毎年行っていた学生さんを連れてのお花見ツアーも今年は実施できそうです。これから色々企画して行きますので、ご都合がございましたら是非ご参加ください。(toshi)